

第 64 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

○と き：令和 4 年 1 月 7 日（金曜日）17 時 40 分から 18 時 15 分まで

○ところ：大阪府庁本館一階 第一委員会室

○出席者：吉村知事・危機管理監・政策企画部次長・府民文化部次長・健康医療部長・報道監

（リモート出席）田中副知事・山口副知事・海老原副知事・総務部長・財務部長・福祉部長・商工労働部長・ワクチン接種推進監・教育次長・府警本部警備部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

資料 1－1 現在の感染状況について

資料 1－2 現在の療養状況について

資料 1－3 オミクロン株の感染状況について

資料 1－4 新規陽性者数シミュレーション

資料 1－5 感染状況と医療提供体制の状況について

資料 1－6 専門家のご意見

資料 2－1 「大阪モデル」警戒への移行（黄色信号点灯）について

資料 3－1 「レベル 2」における「大阪いらっしやいキャンペーン 2021」の対応について

資料 3－2 <報告事項>オミクロン株の感染急拡大に伴う今後の医療・療養体制等について

【知事】

- ・ 昨年の年末にオミクロン株の市中感染が確認されてから、検査体制も強化してきました。
- ・ 市中感染の広がりもあって、特に年明けから、非常に感染が急拡大しています。本日の新規陽性者は 670 人。昨日は 500 人。
- ・ そして、つい最近までは数十人の状況でしたから、年末年始の休みが明けてから感染が急拡大しているというのが現状です。
- ・ また他国の状況、沖縄、東京の状況を見ましても、オミクロン株の感染拡大力というのは非常に驚異的な拡大力がある。
- ・ 大阪において、今日の資料でもやりますけれども、約 8 割はもうオミクロン株に置き換わっているという状況です。今後も感染拡大が予想されます。
- ・ その中で、まず 1 点目については、大阪モデルで今、緑の信号ですけれども、この警戒を示す黄色の信号基準、本日現在では達していませんが、一両日に達することはほぼ明らかでもあります。
- ・ また非常に感染急拡大が続いているので、この黄色の信号を灯して、そしてあの警戒を府民の皆さんに呼びかける必要があると思っています。
- ・ とりわけ、この入院体制、宿泊療養、自宅療養、またそれに伴う医療体制、ここが非常に重要になってくると思います。
- ・ 陽性者数は非常に多い。今後もさらに増える。これほぼ間違いのないと思っています。
- ・ 一方で、各国の研究等でも出ています。大阪府の現状でもその傾向が見られると思いますが、重症化

率は低いのではないかという、そういった結果も出てきています。となれば、やはり本当に入院が必要な人にはできるだけ早く入院してもらって治療を受けてもらおうと。そして、そうでない方について、宿泊療養あるいは自宅で外来往診等を受けていただく。

- ・この適切な医療資源の配分が非常に重要であると思っていますし、これを誤れば、逆に症状が軽い人の入院が非常に多くなって、そういった観点から医療崩壊するということもあり得ると思っています。
- ・それだけ感染拡大のスピードが速い。また、重症化率については低いんじゃないか。こういった特性があるオミクロン株にあわせた、この入院体制と医療、今まで我々が準備してきたものの体制の考え方、方針を示す必要があると思っています。
- ・ここについては、医療協議会の皆さんから、まさに現場でやられている代表の方々から意見をお聞きました。そこで方針の決定をいただきましたので、この本部会議においても、その確認をしたいと思っています。
- ・もう一つは、大阪いらっしやいキャンペーンをしていますが、これについては新規の受付については、一旦、中断をしたいと考えています。
- ・その方針も決定してまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。
- ・府民の皆さんに感染対策の徹底をお願いすると同時に、今の状況をきちんと分析した対策をとっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-5に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-6に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料2-1に基づいて、健康医療部長より説明。

(意見なし)

※資料3-1に基づいて、府民文化部次長より説明。

※資料3-2に基づいて、健康医療部長より説明。

【知事】

- ・まず大阪いらっしやいキャンペーンですけれども、感染拡大をしていますので、新規予約については停止するという判断をしたいと思います。
- ・ただどうしてもこのシステムの変更の部分と、あと周知期間が必要になりますので、この連休明け、そして1営業日ということで、1月12日から新規予約の受付については停止をいたします。
- ・また、既存予約分については、今後の感染状況を府民の皆さんに対する要請内容を踏まえて判断したいと思いますが、現時点において、もう既に予約されている分については、そのまま留め置きという判断にしたいと思います。

- ・そして、やっぱり最も重要になってくるのが、冒頭でも少し申し上げましたけれども、医療療養体制の最適化、ここがオミクロン株との対応においては非常に重要になると思っています。
- ・今後、感染が爆発的に増える可能性も大あります。ただ、重症化率は高くないとなると、その中で陽性者の中でいかに重症化しやすいか、早くキャッチをして、適切に治療するのか。それぞれのシーンに応じた対応を適切にすることが、全体としての重症者を1人でも減らすということにも繋がると思いますし、その判断が非常に重要だと思っています。
- ・その中で今回、医療協議会の皆様のご意見とご同意をいただいて、この方針を策定するという事です。基本的なこの方針で進めたいと思っています。
- ・まず入院については、中等症の方は当然入院とまた酸素飽和度が下がったり、息切れ、肺炎の所見が認められると。これは重症化する可能性が非常に高いですから、もちろんそれで回復される方も非常にたくさんいらっしゃいますけども、やはりここはどのような方であっても、必ず入院をお願いすることにしたいと思っています。
- ・また分類としては軽症に分類される場合であっても、65歳以上の方はリスク要因がある方で、発熱が続くというような状態、症状がある患者さんについては、もちろん外来等で治療を受けられている方は、別ですけども、こういった方についても入院をお願いしていきたいと思っています。
- ・一方で、宿泊療養、これは我々も室数も1万室以上を確保してきました。この間、本当に健康医療部と危機管理室、それから、看護師さんの皆さん、府の看護協会の皆さんも本当にご協力をいただいて、また病院型、診療型の宿泊療養というのを10施設設置していますから、医療機関にもご協力をいただいてきました。
- ・室数については1万室を超える室数。またそういった医療措置をその場でする、まさに軽症病院的なこの宿泊療養施設も準備をして参りましたので、ここも重要な拠点として積極的に活用していきます。
- ・40歳以上の方で、入院の必要ない方は原則として宿泊療養にしたいと思います。また、40歳未満の若い方についても、ハイリスクの要因がある方は無症状であっても、宿泊療養でお願いしたいと思います。
- ・24時間、看護師さんもいらっしゃいますし、経過も見られます。また、点滴治療が必要となる患者さん、あるいは重症化ハイリスクの要因がある患者さんは、診療型の宿泊施設を優先する。このホテルの中での入所の順位というのを保健所とよく共有してもらいたいと思います。
- ・ただ、そうするとやはり原則40歳未満でリスク要因がないという方は、基本的に自宅療養をお願いすることになります。症状として、もちろんその呼吸器症状があれば別ですけども、ここで発熱の症状等もある方も自宅療養ということになります。
- ・医学的には軽症と分類されても、本人とすれば高い熱が出ている人もここに入ってきますので、やはり自宅療養における支援の強化、ここが非常に重要になります。
- ・資料3-2のP.2にいきますけども、この間、自宅療養者向けということで、点滴治療ができる外来は、約266、往診も127。そして、初期治療だけでなく、療養解除まで通じて外来で診るという病院も49医療機関、オンラインは514医療機関、飲み薬については530の医療機関、訪問看護については健康観察ですが209、様々なパルスオキシメーターの食事の配送は当然ですが、この自宅療養の体制というのも強化をしてきました。
- ・40歳未満で、リスク要因がない方について、もちろん重症化する可能性もあるわけですから、ゼロで

はないのがコロナですから。きちんとできるだけ早期の治療をするということは徹底していきたいと思います。

- ・早期治療、早期介入で重症化を防ぐという一番大切な基本方針は全く変わっているものではありませんから、ただその場所をどこにするのか、数が圧倒的に増える以上、場所をどこにするのかの問題だと思っていますので、そのあたりの基本方針、医療機関と保健所との共有をよろしくお願いします。
- ・府民の皆さんからすると、どうやってそこにアクセスするののかということ、特に自宅の場合ですね、宿泊療養や入院の場合もすぐそこに既に入って、その管理者がいますから、その方を中心にやるということになりますけど、自宅の場合は管理者が自分でやるということにもやはりなりますので。どうやってここにアクセスするのというのが非常に重要になってくると思います。
- ・まず一点確認なんですけど、患者さんからすると、府のホームページで外来等、様々な自宅療養者向けのメニューがあるっていうことを確認することになってはいますが、今もう既にやっていますが医療機関のリストって数ってどのぐらいあるのかわかりますか。

【健康医療部長】

- ・はい。資料3-2のP.2右側の例えば抗体治療医療機関の外来266のうち100ほどが病院で、残りがクリニックということになるのですが、公表してよいかどうかというので言いますと、きちんと精査しますと6割ぐらいが名前を公表していいというリストになっています。
- ・ただできるだけ、公表しないでほしいというのは要するにかかりつけ患者さんだけに対する治療と、元々来られている方に対する窓口を開けているという医療機関になりますできるだけこれをオープンにしていだけないかというのを、これから医師会にもお願いをしていきたいと考えています。

【知事】

- ・ぜひ、そこは医師通じてお願いをして広げていってもらいたいと思います。
- ・266の医療機関、外来があつて約6割はもう公表してくれているということなので、かかりつけ医がない府民の皆さん、かかりつけ医があつてもコロナ診療をやっていないという府民の皆さんからすると、もちろん保健所・自宅待機SOSへの電話相談の方法もございますけど、ホームページを見て自分の判断でいくと。これもやることによって、保健所やSOSセンターを介さなくてもいける別のルートがあつた方が圧倒的にいいのは間違いないので、そういった意味で、自分の家の近くにどれだけあるの、どこに行けばいいのっていうのがすぐわかるようにしていくのが重要です。
- ・今、全体の約6割ぐらいということですけど、ここはできるだけ多くの医療機関に協力いただいて働きかけをして、府民の皆さんが自宅療養してもすぐに自分が行きやすくなるようにですね、ちょっとお願いをしてもらいたいと思います。
- ・それからもう一つの、府民の皆さんのアクセスルートとして、保健所と府で運営している緊急サポートセンター、保健所が非常に業務を圧迫した場合の受け皿として、自宅待機SOSを作ってますけども、今後、保健所業務が逼迫することが想定されます。
- ・感染者急増に伴って保健所でやるべきことっていうのはその数の分増えますので、また右肩上がりになるとやはり保健所として非常にひっ迫していきます。
- ・なので、この自宅待機SOSのサポートセンターが非常に重要な役割を果たすことになると思います。今、回線って何回線ぐらいあるのかというと。

【健康医療部長】

- ・最低 150 回線は準備ができています。まだ今のところ電話はあんまりかかってないですが、回線がもしオーバーフローするということになりましたら、まだ拡大が可能な準備をしております。

【知事】

- ・150 回線まで増やすのには何日ぐらいかかりますか。

【健康医療部長】

- ・即座に対応ができます。

【知事】

- ・わかりました。ここもおそらく 24 時間、特に夜もかかってくる可能性が非常に高いので、その電話かけたけど繋がらないということにできるだけならないように、体制の強化をお願いします。
- ・もう一つは、その連絡先をどうやって知るのかということですけども、さっき健康医療部長からもお話ありましたが、自宅療養者向けのチラシを陽性者の方に配るということなので、ただやっばり市町村との協力っていうのが非常に重要になってくると思います。
- ・特に市町村によっては、自宅療養者に、食事配送もあります、それに加えて何らかの市町村民に対しての自宅療養者の支援をしたい、特別な何かサービス支援をするという市町村もやっぱり出てくる。
- ・その市町村は、どこに自宅療養者がいるのか、個人情報共有してくれという声があって、それはやりましょうということになったと思うんですけど、その共有状態というのはどういうふうになっているのですか。
- ・共有できれば、その分市町村から、いやこういう SOS センターがありますよとか、市町村の皆さんに伝えていただけたら、住民に身近なところの市町村に伝えてもらったら、自宅療養の方も、この手段を知って、ここの病院があるのかって連絡するっていうのもできると思うので、市町村の力を借りるのは非常に重要だと思うんですけど、この辺りどうなんですか。

【健康医療部長】

- ・具体的に数市と調整が進んでいるのですが、今回このオミクロンで対応がスタートできるかどうかという確認をいたします。市町村からお知らせいただくということも非常に重要ですので、これはまた市長会等を通じて私も来週お願いしたいと思っています。
- ・そのルートが一点と、多分、最も確実なのは検査をしていただいた医療機関、検査する場合オンライン診療除いて必ずそこに行かれていますので、検査をされたところで自宅療養の場合はこういうツールがあるということをお知らせいただけるようにこれも医師会さんとよくご相談をしたいと思います。

【知事】

- ・はい。市町村は大阪府が積極的なのは当たり前ですけども合わせて重畳的にやる必要があると思う

んで、市町村のルート、それから検査機関のルール、検査もネット検査機関とか様々な検査方法がたくさんありますから、必ずしもクリニック等だけでもありませんし、その重畳的に検査機関と市町村と我々大阪府、何とかできるだけ積極的に情報を自宅療養者に伝わるようにして、このルートがあるんだってというのはちょっと知ってもらえるようお願いしたいと思います。

- ・ちなみにこの今日のこの方針を決めた医療療養体制の適正化を決めた中で、運用はいつから始まるということになるんですか。

【健康医療部長】

- ・この考え方でできるだけ早くスタートしたいと思っていますが、まず病院側との認識共有が大事になります。
- ・その次に保健所側との認識共有が大事になりますので、連休明けに医療機関との共有の場をまた検討したいと思います。
- ・保健所には本日の決定内容につきまして、共有をしたいと思えます。
- ・一斉にスタートできるか、少し数日混じる可能性があると思えますけども、スタート日を明日からスタートできるか、数日、共有までにかかって、例えば週明けスタートということになるか、これは検討したいと思います。

【知事】

- ・明日以降も何人陽性者が出るかわかるし、東京は今日も1000人近く出て、沖縄1400ですから、大阪だったら明日1000、1500、2000というのはこの連休中にでも、あるいはその連休明けは、連休中の検査がたまって、そのあとバツと出るということもありえますし、段階的に今日の情報は、まず保健所が入り口になりますよね。

【健康医療部長】

- ・保健所に対してはこういう入院基準になるというのはもう今日発行いたします。具体的に入院調整がこの通りにピタッとうまくいくかというところちょっと数日を要すると思えます。

【知事】

- ・ここはできるだけ早め早めで対応をお願いします。
- ・あと、危機管理監に確認なんですけど、宿泊療養のホテルの室数は1万室を確保してありますが、順次、今開けていっていると。その数、タイムテーブルとかそこは問題なくいけますかね。濃厚接触者用ホテルもあってそこ順次、今移動してもらってますけど。

【危機管理監】

- ・国にちょっと利用していただいているとか、濃厚接触者用がありますけれども、濃厚接触者用ももうまもなく、いずれはなくなっていくと思いますし、そういう意味で言うところの感染状況でもなんとか受け入れができていないんじゃないかなというふうに思っております。

【知事】

- ・ぜひ、診療型の宿泊療養もありますし、非常に重要なポジションを占めることになると思えますの

で、しっかり準備をお願いしたいと思います。

- ・それからもう一点、大規模医療・療養センター、野戦病院的な施設についてです。
- ・もちろん方針通りでいこうと思っておりますが、場合によってはこの宿泊療養が非常に大きく増えてくる可能性もある。そして、臨時的に動かす必要性というのが高まってくる可能性もあります。これは、その可能性なく終わるかもしれませんが、これはわかりません。オミクロンの拡大がどのぐらいのスピードで増えるかが、もう誰も予測できないので、わからない。
- ・ボタン押してから少し時間がかかるということもあったと思うので、今の間にまだちょっとボタン押すわけじゃないんだけど、できる下準備っていうのは、特に軽症 800 床の方についてはちょっと考えてもらいたいと思っておりますけど、その準備状況とは何か。今の中でわかることありますか。

【危機管理監】

- ・元々はホテルの利用状況が 50%を超えたらスイッチ押して、だいたい 2 週間で運用となっています。
- ・それを今知事おっしゃられましたように、できるだけ 2 週間と 50%というルールはおそらく変わらないかと思っているんですが、その 2 週間というのをどれだけ短縮できるか。
- ・これちょっと今調整しております、ある程度一部でも早くできないかなという相談をしているところです。

【知事】

- ・宿泊療養なんですけど、自宅で適切な感染対策が取れない患者も対象になっていると。自宅で陽性になって自宅療養される方ももちろんいるんだけど、家族にうつしたくないからどうしても宿泊療養施設に入りたい人は、ここに入るということなのかな。

【健康医療部長】

- ・具体的には家族に感染させるといけない基礎疾患をお持ちの方であるとか、高齢の方がいらっしゃる場合というのは、ホテル希望された場合にはホテルに入っていただいた方がいいと思っています。

【知事】

- ・野戦病院的な施設も含めて、オールの体制で考えていく必要があると思いますので、よろしくお願ひします。

【危機管理監】

- ・了解いたしました。

【知事】

- ・それと、あとやはりこのオミクロンの陽性の方がどういう、中等症の方か重症の方は当然将来出てくるとは思うんですけど、どういう方がそうなっているのかっていう分析がすごく大事だと思うので、当然それぞれの病院で、これから入院患者増えてきて、対応することになると思うんですけど、その情報をできるだけしっかり集約して、また僕の方にも報告をお願いします。
- ・その状況によっては、これどうしていくのかっていうのを、陽性者数が圧倒的に増えたときにまたい

ろんな施策を考えていかなきゃならない可能性もあると思いますので、よろしくをお願いします。

- ・また国に対しても、ちょっと早く、大阪府の情報だけでなく沖縄とか東京とか、様々なオミクロンの情報があるはずなんで、できるだけ早く知見を出してほしいというのは、ぜひ大阪府からも要請をお願いします。
- ・現場のこの状況の中で、国がそこをなかなか示さないと、こういう判断をやっぱり地方で当然していく必要もあるし、もう全員入院とかですね、逆に、適切な医療資源の配分せずに、医療が別の理由で崩壊するっていうのは絶対あってはならないと思いますけど、こんな患者が増えてきたらそれは現場の我々判断する方もその情報がないと、なかなか判断難しいところもあると思うので、ちょっとその症例分析はきちっと早く出して、いろんな入院とか宿泊とかをどう考えるのかっていうのは、賛否あるところだと思いますけども、当然これ専門家の意見を聞いた上になるとは思いますけど、その情報が集約されている、たくさん集まっている国に対して積極的に開示するように、ちょっとお願いしてもらいたいと思います。
- ・あとはワクチンの3回目接種が非常に今重要になるのでこれもずっと言ってることですが、施設とか市町村に3回目接種をできるだけ早くというのは重ねてまた府から市町村、もう既に言ってますけど、お願いをしたいと思います。

【健康医療部長】

- ・今回のオミクロンの感染状況も含めまして、週明けにもワクチン接種を急いでいただきたいということも含めて再周知したいと思っています。

以上